

## 研修報告書 No.25

県外病院初期臨床研修医

研修先： 医療法人白井会 田野病院

2020年に1ヶ月間、高知県東部の田野町にある医療法人白井会田野病院で研修させていただきましたのでここにご報告いたします。

最初のオリエンテーションで、田野病院より東には現在大きな病院がなく、室戸市の患者さんまで幅広く田野病院がカバーしなくてはならず、そこから田野まで救急搬送しても1時間ほどかかるという状況であるとのことを知りました。しかし、そんな田野病院も医療従事者が十分にいるとは言い難く、職員が協力して時間外勤務をしていたり、訪問診療や訪問看護などは原則1人が支えており、その人が体調を崩したらたちゆかなくなってしまうという労働環境にも驚きました。また、10年後の日本の姿と言われているほど高齢化が進んでおり、入院全体の67%が80歳以上の高齢者であることにも愕然としました。

田野病院では急性期、回復期の病棟があり、その他デイケアや通所リハビリ、また訪問診療・看護・リハビリなど幅広くカバーしていて、急性期から維持期までの流れが円滑に行われ、患者さんにとっては非常に安心だろうなと感じました。同一施設内だけでなく、地域の医療機関の連携が非常によくとられており、互いに顔見知りであることも地域医療ならではのと感じました。

本研修では、医師としての研修業務だけでなく、看護やリハビリ、訪問医療、介護老人保健施設など、普段の研修では携わらない、多方面から患者さんに関わることで、一人一人の患者さんが退院後の生活でどのようなサポートを必要とするのか、またどのような生活を望んでいるのかを考えることを始めとし、患者さん一人一人の人生を深く考える機会をいただきました。

訪問診療・看護・リハビリなどに同行させていただいた際には、「外部と関わりたがらない」、「家族や周囲の人の支えが受けにくい」高齢独居の方や、老々介護の多さに驚きました。他にも中には、同居家族がいるが適切な介護をされていない、田野病院が常に満床で入院が必要な場合でも自宅療養を余儀なくされているなど多岐にわたる問題点がありましたが、解決の糸口がないものも多くありました。施設の往診に行ったときは、非常に少ない情報しかない中で10人ほどの要介護者の診察をすることもありました。そういった現状をみて、訪問診療の問題点や難しさを痛感しました。

また、見学させていただいた介護老人保健施設では、多くの寝たきりの患者さんが入所していることに驚きました。職員の方々は業務に追われていて、人員不足から新規入所をお断りしなければいけない現状でした。普段病院内での仕事に忙殺され、退院後に施設への入所や在宅介護が必要な方に関してはソーシャルワーカーさんにまかせきりで、退院後の生活

を深く考えたり、まして実際に見る機会はほぼなく、地域での研修でこのような実態をみる  
ことができたことは非常に大きな経験となりました。

地域医療ではマイナス点だけでなく、医療従事者間や患者、家族とも顔見知り  
で相談や情報提供を行いやすいという強みもありました。あるとき、「看護師さんはこのへんでと  
ても顔が広いから、患者さんのことをよくわかっていて、この人は普段こういう生活をしてい  
るから、こうしたほうがいとアドバイスもらうことも多いよ。」と先生がおっしゃっており、  
地域密着型の医療とはこういうことなのかと感銘を受けました。また、医師と他職種の方々  
との距離感が非常に近く、とても働きやすい環境であったことが特に印象的でした。

最後に、田野病院での研修は温かく素敵な人たちに恵まれ、とても充実した研修となり  
ました。病院のスタッフの方は忙しい中、観光に連れて行ってくださり、高知市内や桂浜、室  
戸岬、仁淀川など多くの名所に足を運ぶことができました。この研修期間を通して、第二の  
故郷が出来たようです。このような機会をいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。